

ネットワークアンケート ⑥0

糖尿病ネットワークを通して 医療スタッフに聞きました

Q. この5年間で、もっとも印象的な出来事は？ n = 82

糖尿病情報BOX&Net. 創刊15周年を記念し、2014年から現在までの5年間を振り返ってみました。題して「読者が選ぶ、重大ニュース」。医療スタッフや患者さんは、どのような出来事が印象に残っているのでしょうか？

医療スタッフ82名（医師9名、看護師・准看護師28名、管理栄養士・栄養士18名、薬剤師12名、保健師5名、臨床検査技師3名、理学療法士1名、その他12名。うち日本糖尿病療養指導士27名、地域糖尿病療養指導士14名、糖尿病認定看護師5名）患者さんやその家族245名（病態／1型糖尿病103名、2型糖尿病133名、その他9名、罹病期間／5年以下64名、6～9年23名、10～19年76名、20～29年42名、30年以上36名、その他4名）

医療スタッフでは「フラッシュグルコースモニタリングシステム発売」を挙げた人がもっとも多く、1位に。選んだ理由として「自己管理が行いやすくなる」が最多で、次に「糖尿病治療を革新する出来事だから」が挙げられました。

2位は「SGLT2阻害薬の発売」でした。SGLT2阻害薬はまったく新しい作用機序を持つ薬剤で、現在では糖尿病治療の一翼を担っています。糖尿病治療に直結する出来事ですので、医療スタッフの関心が高いのは当然かもしれません。「治療の選択肢が広がる」「治療の向上につながる」という声が多く聞かれました。

3位には「食べる順番」に関するニュースがランクインしました。血糖コントロールにおいて食後高血糖は重大な問題です。米飯より魚・肉を先に食べることで食後の血糖上昇がゆるやかになること、GLP-1分泌が亢進され胃排出時間が2倍以上延長することが明らかになったのは、食事指導において大きな力となったと考えられます。「2型糖尿病の治療の向上」「患者さんのQOL改善」「糖尿病の予防」といった点で、医療スタッフの関心を大いに集めた結果となりました。

一方、今後5年間で進化すると思われる分野を尋ねたところ、糖尿病医療を劇

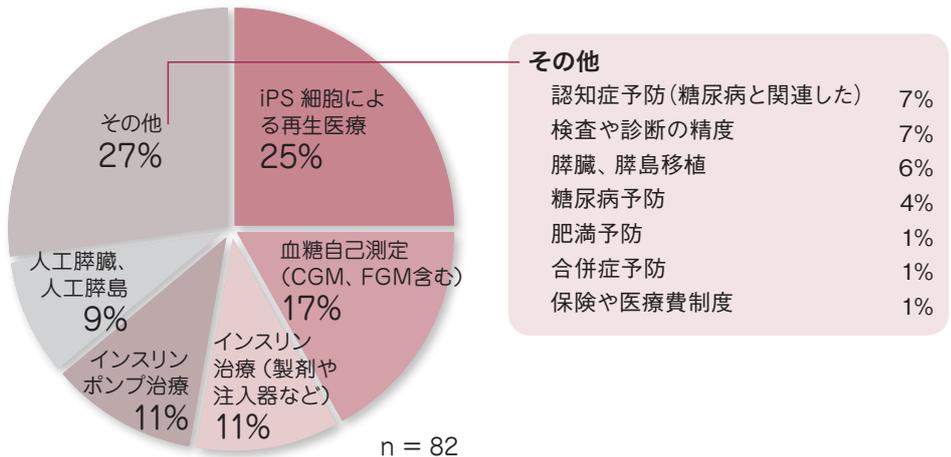
- 1位 18人
フラッシュグルコースモニタリング発売*1 2017年
- 2位 13人
「SGLT2阻害薬」6製品が相次いで発売 2014年
- 3位 11人
「食べる順番」で食後高血糖が改善*2 2015年
- 4位 パーソナルCGM搭載インスリンポンプ、SAP登場*3 2015年
- 5位 「糖尿病性腎症重症化予防プログラム」策定*4 2016年

*1「FreeStyleリブレ」 *2 関西電力医学研究所発表 *3「ミニメド620G」 *4 厚生労働省

的に変える可能性のある「iPS細胞による再生医療」が1位に。以下は「血糖自己測定(CGM、FGM含む)」「インスリン治療(製剤や注入器など)」「インスリンポンプ治療」が続きました。再生医療に希望を抱きつつ、血糖コントロールの進化に期待を寄

せていることがうかがえます。また最後の「未来の糖尿病治療に期待すること」についての質問では、糖尿病の完治につながるようなことや治療の進化だけでなく、認知症、医療費、予防・啓発まで、幅広い項目が挙げられました。

Q. 今から5年後にもっとも進化する分野は？



Q. 未来の糖尿病治療に期待することは？

- 糖尿病が治癒する病気になってほしい
- iPS細胞による再生医療で1型糖尿病患者さんに光を
- 血糖パターンをAIが分析し、必要なインスリン量を教えてくれるアプリ
- インスリン経口摂取
| ■ 認知症の患者さんが低血糖をおこさず使える血糖降下剤テープの開発 |
- 医療費の負担軽減
- 糖尿病予防対策が世間一般に普及すること
- 心血管(大血管)障害の予防ができる新しい糖尿病治療薬の開発